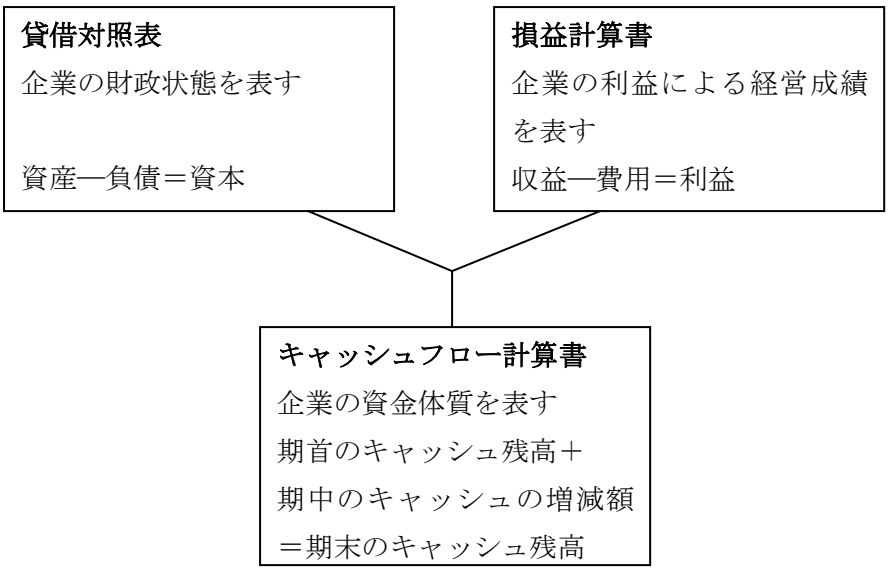
キャシュフロー計算書の見方・活用

これまで企業は、貸借対照表と損益計算書という２つの財務諸表の作成を義務付けられていた。貸借対照表は財産、財政状態を示し、損益計算書は利益の流れ、損益状況を表してきた。しかし、企業活動の実態をありのままに報告するためには、今までの財務諸表だけでは限界があります。

そこで、キャッシュフロー計算書が第３の財務諸表として追加され、貸借対照表と損益計算書では、キャッシュの動きを把握することができませんでしたのでキャッシュフロー計算書はその点を明確に表わします。また、貸借対照表と損益計算書を補足説明形で、経営活動の目的や意図および行動を映し出すことができます。



キャッシュフロー計算書の基本を押さえる

１、　**役割**（決算書の中でどんな位置付か）

種類	従来の言い方	わかりやすく言うと
損益計算書	経営成績	儲かっているか
貸借対照表	財政状態	お金はどこからきてどこへ行ったか
キャッシュフロー計算書	資金体質	儲かったものはお金として残っているか

２、　**内容**（何が書いてあるか）

期首のキャッシュ残高

＋

期中のキャッシュ増減高

＝

期末のキャッシュ残高

⇒ ここを３つに分ける

営業キャッシュフロー
投資キャッシュフロー
財務キャッシュフロー

入ってきたキャッシュは（＋）
出て行ったキャッシュは（－）で記載

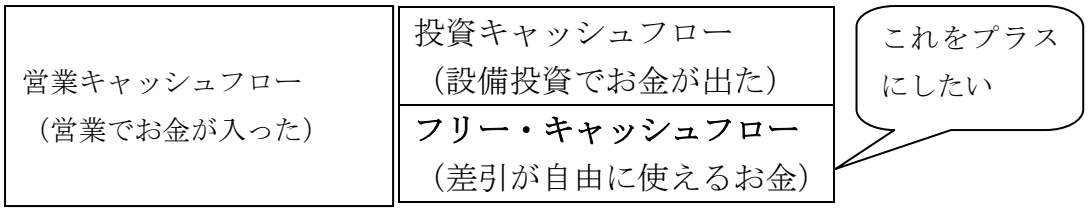
営業キャッシュフローの理解しよう

営業キャッシュフローのポイント（利益からスタートするところがミソ）

営業キャッシュフロー	
業績 （ここに損益計算書の利益が入る）	取引条件 （「売ったのにお金が入らない」「在庫が増えた」等が入る）

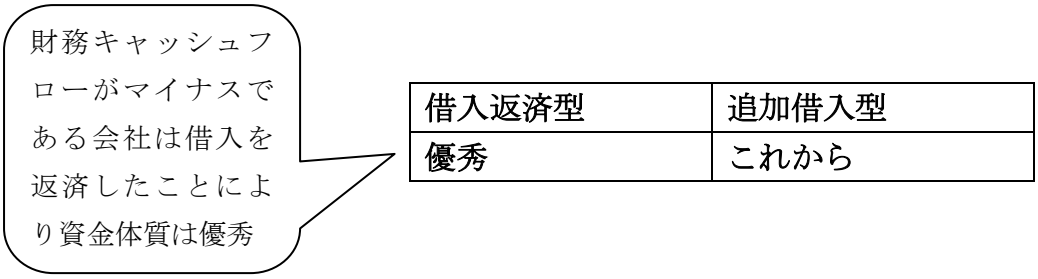
投資キャッシュフローの理解しよう

投資キャッシュフローのポイント（設備投資でお金が出ていく）



財務キャッシュフローの理解

財務キャッシュフローのポイント（優秀な会社とは）



まとめ

・キャッシュフロー計算書は儲かった利益（営業キャッシュフロー）が設備投資（投資キャッシュフロー）と借金返済（財務キャッシュフロー）に行き、残ったキャッシュがいくらかがわかります。

・経営者の質問「利益がどこへ行ったのか？」にズバリ答えられる

・一番大切なポイントは、自由に使えるお金「フリー・キャッシュフロー」です

キャッシュフロー計算書の活用

キャッシュフロー計算書はこう活用しよう

１、　**大切な指標**（自由資金比率を見ればよい）

フリー・キャッシュフロー
（自由になるお金）

÷

自己資本増加額
（税引き後の利益）

＝

自由資金比率
（利益がお金として残った率）

キャッシュフロー計算書から求めます

自己資本（返済不要の資本）の増加は税引き後の利益（株主資本等変動計算書の配当を控除したもの）

これを見ていると勘定あって銭足らず（利益はあるがお金はない）から脱却できる

２、　**実務で押さえるところ**（自由資金比率とはどんな意味か）

意味		利益がお金として残る率
数字	どうなれば	高いほどよい
	目指すは	７０％
	赤字企業	意味なし
	黒字企業	４０％
	優良企業	７１％
評価		理想企業　１００％ 優良企業　７０～９９％ 普通企業　４０～６９％ これから　２０～３９％ 要改善　　１９％以下

３、　改善のポイントは３つ

改善項目	改善の方向	関与する人
売掛金・受取手形のコントロール	回収方針の樹立・徹底評価項目にも入れる	全社員
在庫のコントロール	在庫目標の設定と徹底評価項目にも入れる	全社員
固定資産のコントロール	５年平均のフリー・キャッシュフローを見ながら意思決定	トップ

改善のポイントは

自分の会社を見る時

得意先、仕入先を見る時

提携先を見る時

に使える

まとめ

・「勘定あって銭足らず（利益があるがお金がない）」は３つの項目、すなわち売掛金、在庫、固定資産から生じます

・改善していくには自由資金比率を見ていけばOK。１００％を目指しましょう。（黒字企業平均４０％、優良企業平均７１％）

・一番大切なポイントは、資金繰りが楽な会社になるためには自由資金比率に注目すること

キャシュフロー計算書にはこんなことが書いてある

（優良企業編）　　（百万円）

本業でのキャッシュの増減を示す

１　営業キャッシュフロー	
経常利益	３５
法人税等の支払い	－１７
減価償却費	４
売上債権の減少	２
棚卸資産の減少	２
その他資産の増加	－１
買入債務の減少	－４
割引手形の増加	０
その他債務の減少	－２
営業キャッシュフロー	**１９**
２　投資キャッシュフロー	
固定資産の増加	－３
減価償却費	－４
投資キャッシュフロー	**－７**
フリー・キャッシュフロー（１＋２）	**１２**
３　財務キャッシュフロー	
借入金・社債の減少	－５
配当金の支払	－１
財務キャッシュフロー	**－６**
キャッシュ増加（１＋２＋３）	**６**
キャッシュ期首残	**８３**
キャッシュ期末残	**８９**

商売上の取引でキャッシュの増加は１９００万円
本業での稼ぎを指す一番大切なキャッシュフロー

投資活動、主に設備投資でのキャッシュの増減を示す

将来の利益を獲得するための設備投資などに７００万円使った
設備投資額が営業キャッシュフローより少ないことが優良企業の目安

営業キャッシュフロー＋投資キャッシュフロー

財務活動でのキャッシュの増減を示す

自由に使える手元現金が１２００万円ある　フリー・キャッシュフローは多ければおおいほどよいプラスであることが優良企業の目安

「営業キャッシュフロー」＋「投資キャッシュフロー」＋「財務キャッシュフロー」

期首のキャッシュ残高

キャッシュ期首残＋キャッシュ増加

キャッシュフロー計算書の機能
企業のキャッシュの増減を営業、投資、財務に分け表示することにより、どのような企業活動でキャッシュが増減したかを把握することができる

フリー・キャッシュフローを借入金の返済に５００万円、配当金の支払いに１００万円充てた
借入金がマイナス（減っている）であることが優良企業の目安